

# 関西蓄電池人材育成等コンソーシアム 第1回本会合 議事要旨

## 1. 日時

令和4年10月13日(木) 10:00~12:10

## 2. 場所

TKP 心齋橋駅前カンファレンスセンター ※Microsoft Teams によるオンライン併用

## 3. 参加企業・団体

パナソニックエナジー(株)、プライムプラネットエナジー & ソリューションズ(株)、(株)GSユアサ、大阪ソーダ(株)、(一社)電池工業会 (BAJ)、(一社)電池サプライチェーン協議会 (BASC)、技術研究組合リチウムイオン電池材料評価研究センター (LIBTEC)、関西経済連合会、福井大学、京都大学、大阪大学、近畿大学、大阪公立大学、兵庫県立大学、大阪公立大学工業高等専門学校、神戸市立工業高等専門学校、国立高等専門学校機構、府県 (福井県、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)、政令市 (京都市、大阪市、堺市、神戸市)、産業技術総合研究所 (AIST)、新エネルギー産業技術総合開発機構 (NEDO)、製品評価技術基盤機構 (NITE) 文部科学省、経済産業省、近畿経済産業局

(事務局：近畿経済産業局、BAJ、BASC)

## 4. 議事要旨

資料1~3について、事務局より説明

資料4・5について、産業技術総合研究所・リチウムイオン電池材料評価研究センターより説明

資料6について、大阪公立大学工業高等専門学校より説明

意見交換における参加者からの発言要旨は以下のとおり。

### 電池戦略に掲げる目標について

- 150GWhという規模感は大きい。目標の達成に向けて、関西圏にとどまらず、全国展開を見据えたユースケースづくりをお願いしたい。

### 産学連携による教育について

- 継続的に人材を育成・輩出するためには、産学が連携する仕組みが不可欠であり、産業界の協力が肝要。また、産業界に、学生の質や教育レベルを知ってもらうことが重要。
- 現在の教育内容と求められる人材・スキルのギャップを埋め合わせることも大事だが、カリキュラム作って実装していくにあたっては、企業からの講師派遣や、教職員へのサポート、実習機器等、様々な議論・検討が必要。
- 3万人という規模感に対して、すべて企業から講師を派遣したり、工場見学を受け入れたりすること等は現実的ではない。企業活動がある中で、効率的でサステナブルな仕組みが必要。
- 教育プログラムは、ロボットや半導体等といった先行事例や大学での授業等を参考に、活用できる部分は取り込んでいけばよい。

### 電池の魅力発信について

- 「電池の魅力」をどう発信できるかが非常に重要。教科書にプラスして、「電池の魅力」を打ち出さなければ、電池業界へ就職する学生は間違いなく減っていく。
- 若い人材が継続的に電池業界に就職し、活躍しないと業界が盛り上がらない。企業名を学生に打ち込んでいくこと、学生を交えて研究発表会や交流会をすることも有効。高校・高専の教員が積極的に好奇心を植え付けるような働きかけも重要。
- 学生だけでなく親に対しても、魅力あるキャリアプランを示すことが重要。

### 必要な人材について

- 新卒だけでなく 30 代・40 代を含めて全年齢層でバランス良く人材を確保していく必要がある。学生だけでなく、中途採用や他業界からの人材に対するリスクにも取り組む必要がある。
- 材料、プロセス、設備、電気制御の 4 つの知識・学問を習得すること、実際に手を動かすことが大事。限られた学生の時期にどのように習得してもらえるのか、議論したい。

以上